

論のつぎこまれた知識から推す猿の面貌。ぢつと眺めてゐる間にその猿と異なるところのない一致點がまざ／＼と心を取り圍んできた。妻のつるりとしたいゝ匂のする圓ぼちやな顔も、常々鏡の恩恵によつて知ることを得る自分の、學校生活をしてゐる頃から馬手桶とあだなされた細長い、いやに頭骨と鼻とが突き上つた顔の、どの點もが似通ふいさゝかの肯きをも得ることが出来なかつた。

月日がぐん／＼と過ぎてゆくうちに、自分と妻とは取り残されたやうに、子供ばかりが成長していつた。猿の面貌がだん／＼とりさられて、顔のうぶ毛も黒赤味も野面の靄がはげさつてゆくやうに知らぬ間にはげ去り、蒼空のやうに澄み渡つた眼玉がゴム人形のやうなつややかな顔の中に強い牽引力をもつことを見た。

大きな陶器の丸火鉢を据ゑつけた待合室に、看護婦が大事らしく抱いてあやしてゐると、女の患者などが、

「まあ可愛い嬢ちゃんですこと、さう、禮子ちゃんとおつしやるのですか。禮子ちゃん、禮子ちゃん、あつばあつばおしなさい。いゝお手々ですことね」などと云ひながら、小さなふ

つくらしした手に接吻などしてゐるのを見た。さうして、

「まあ先生にこんなにもよく似ていらつしやるでせうか、色のお白いところは奥さんそつくりですわね」といふやうな言葉がしば／＼耳を衝いて來た。

彼の子供に對する心持がだん／＼變つていつたのは事實であつた。

それでもまだ彼は、子供を抱いてあやしてみようとする事はそれほどしなかつた。

更に月日が四年五年と経過してゆくうちに年々彼は年兒を拵へていつた。さうして二人目の子供が出來たとき流産で亡くなした癖がついた妻は、多く年毎に流産の悲みを味つた。七年目にやつと一人粒々した男の子を産み落した妻を眺めたとき、妻よりも看護婦よりも産婆よりも四圍の誰彼より、最も慌てふためいて驚きたつ彼自身を見出した。彼は進化論の知識もすて、學校で學び得たすべての科學上の知識を忘れ去り、たゞ、其處に疲れ青ざめて横はつた妻の體からだを離れて、まる／＼と肥えふとつた健康さうな産兒が、全身に紅潮をみなぎらし、烈しく焼けつくやうな聲をあげてをどつて居るのを見て、驚かずには居られなかつた。こんなからへきれないよろこびをどざりと眼前へころがし出して呉れた妻に對するいとしさが、

彼の眼玉へいつばい涙をためさせて、かつて一度だつて自分の心に見ることの出来なかつた狼狽さを見せるのであつた。

彼はあらん限りの努力をさゝげて妻の介抱につとめた。子供を一時でも他人の手中に預けて置くのがをしいやうな心持がして、毎日午後から出かけてゆく患者のどこの家に在つても、子供の容貌と、濡れひたつたやうな滑らかな髪をいたゞいた子供の頭の恰好とを忘れ得なかつた。

その頃から彼の心に、妻の腹の中から成長せずに空しくぬけ出していつた幾人かの子供の顔が、いとしくうつり出してきた。寝てゐて夜中に電燈の光を眺めてゐるときなどは、ことに深く彼の心をなやました。

彼はその心持を、ごく心易くつきあつてゐる同じ醫者仲間へ話したりした。けれども彼自身を抱いてゐるやうな心持をじつくりと對者へ移し植うることも出来ず、それほど痛切に對者を感じ入る表情を見せなかつたことは彼の心に軽い淋しみを與へてゐた。

彼は都合しては一週に一度ぐらゐる子供の亡骸が埋められた假埋葬地へ出かけて行つて、そ

れとなく香華を手向けた。さうしていままで一度も彼の心に浮んでくることのなかつた、墳墓地を定めることについて考慮するやうになつた。

彼は貯蓄してきた金の一部を割いて、彼にとつて相當にゆたかな墳墓地を選択して買入れることに決心した。世間の誰にもだまりこくつて。

(大正九、三)

鼠

大雪の降り積つた峠を越えて、山深い部落へ大病人の診察に出かけて行つた一人の醫者があつた。患者は既に彼によつて數回の診察を受けてゐたのであるが、病勢がぐんぐんとすすんでいつてどうしようもなく、全く危篤の状態にあつた。

山家のならひで、炬燵にこんくと大火を起して、彼をおろそかにせぬ唯一の方法がとられてあつた。病人の家族が懇請するまゝに彼はこゝで一夜を明かすことにして、着のみ着のまま、暖い炬燵へ足をつき込んで仰向きに寝そべつてゐた。看護に目を重ねて來た家族たちも、看護疲れで襖を隔てた圍爐裏ばたにごろ寝をしてゐる中に、根柢の焚火がとろくと衰へた焰を動かしてゐた。危篤の患者が幽かに重苦しくうめく聲が耳について眠れなかつた彼も、

夜の十二時が過ぎ一時が過ぎて行くうちに、何時にかうとくと眠りにおちてゐた。

と、仰向きに寝そべつた彼の口のほとりをふすくと嗅ぐものがあるやうな氣配におびやかされ、彼はびつくりしながら、片方の手で強く口のを拂ひのけた。同時に一匹の鼠が高く顔の上を跳ね越して、かすかに然もはげしく、薄暗いランプに照らされた疊の上を走つてゆくのが鮮かに意識に上つた。

彼は起き上つて鼠の行方を見ようとした。病人の部屋との間の古襖が少し開かれてゐるところを、鼠がもく／＼とはいつてゆくのを見た。

彼は又仰向きに寝そべつたが、やがて心に、病人の靈が俺をよび起しに來たのに違ひないと確く信じた。そこで彼は起ち上つて病人の部屋へ歩みをはこびながら、水を打つたやうな静寂に襲はれ、びつたりうめきをとめた病人をすかして鼠の居どころを見廻した。

息がつまるやうな心の緊張さは、この時ほどよりよく彼を醫者としての天職に導いたことはなかつたといふ彼のはなしであつた。

(大正九、三)

昭和十一年十二月二十日印刷
昭和十一年十二月二十五日發行

穢土寂光

定價二圓二十錢

著者 飯田蛇笏
發行 野田誠三
印刷 白井赫太郎
製本 中尾次男

東京市牛込區柳町二四番地

發行所 野田書房

振替東京五二四七九番
電話牛込(34)二四一五番

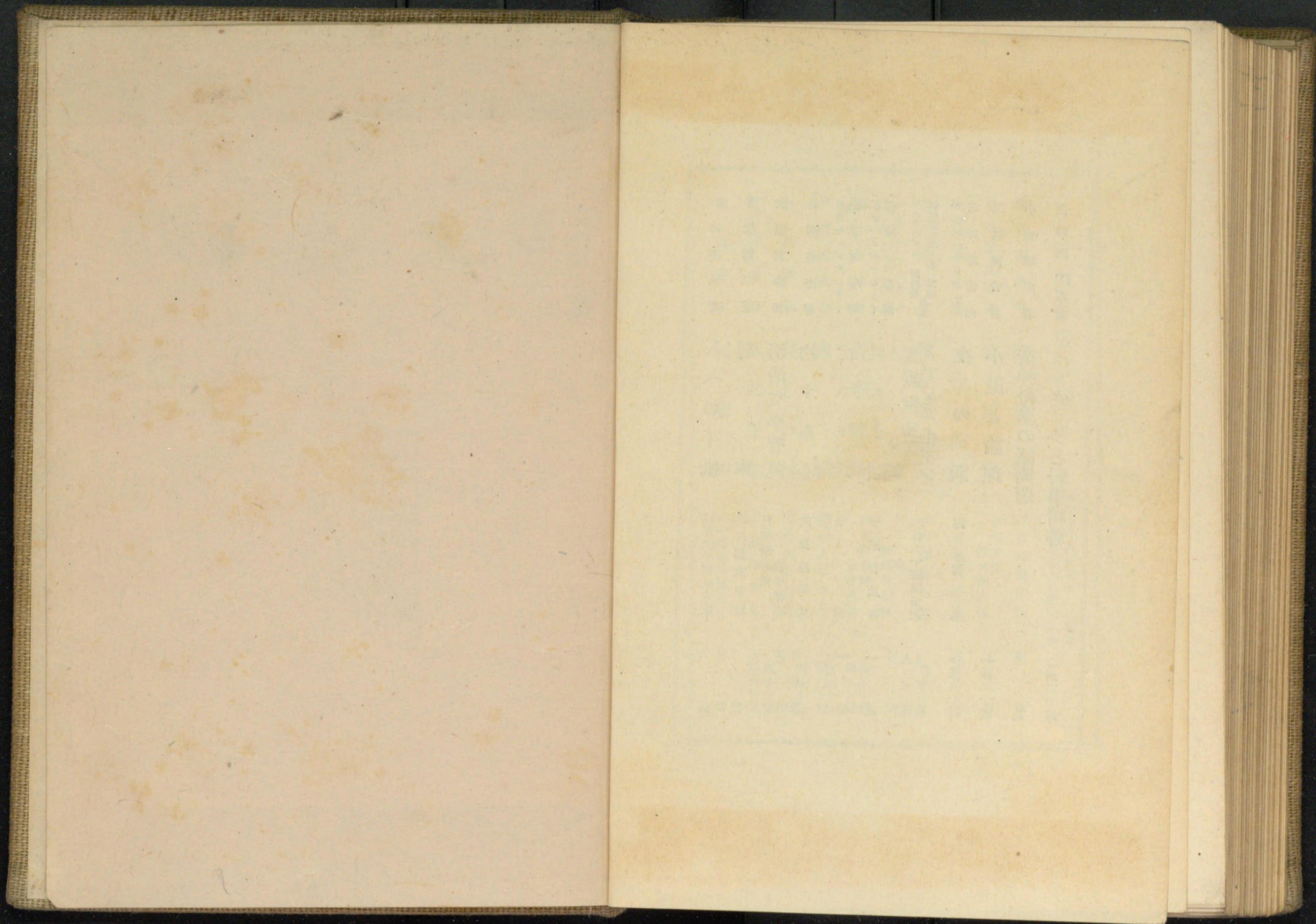
東京市神田區錦町三丁目十一番地 精興社印刷

野田書房刊行書

東京市牛込區柳町二四番地
振替口座東京五二四七九番

永井荷風著	雨瀟瀟	三百部限定版	賣切
芥川龍之介著	地獄變	百七十部 特別限定版	五圓
佐藤春夫著	一吟双淚抄	三百部限定版	三圓八十錢
室生犀星著	犀星發句集	五百部限定版	一圓九十錢
エドガア・ポオ 日夏耿之介譯	大鴉	百三十部 特別限定版	拾圓
瀧井孝作著	折柴隨筆	日本圖書館 協會推薦	二圓五十錢 一圓二十錢
川端康成著	禽獸	附「ちりぬるを」 五百部限定版	一圓八十錢
堀辰雄著	美しい村	五百部限定版	BA 賣切 二圓
堀辰雄著	狐の手套	小品隨筆集	一圓七十錢
堀辰雄著	聖家族	八十部特別限定版	賣切

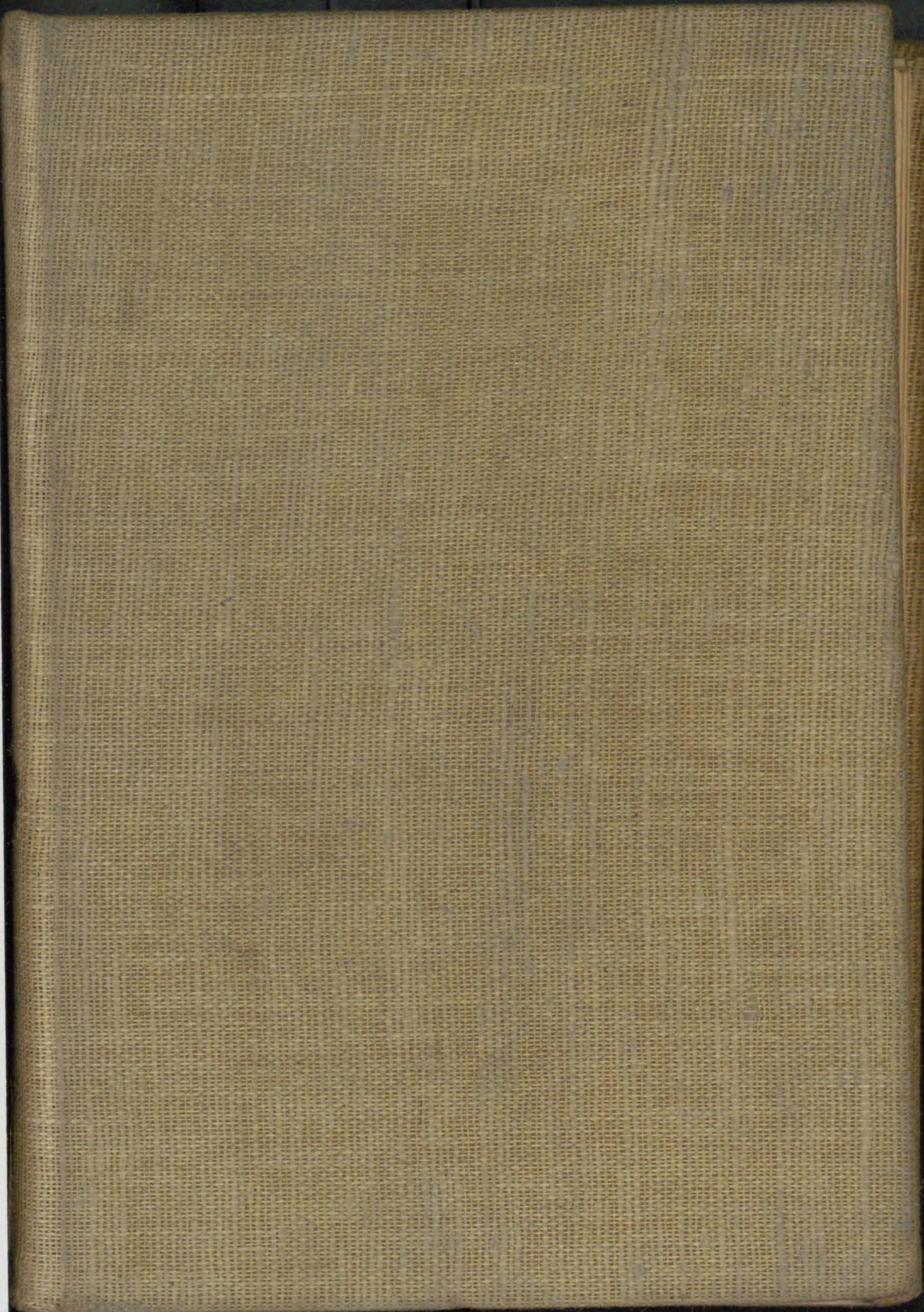
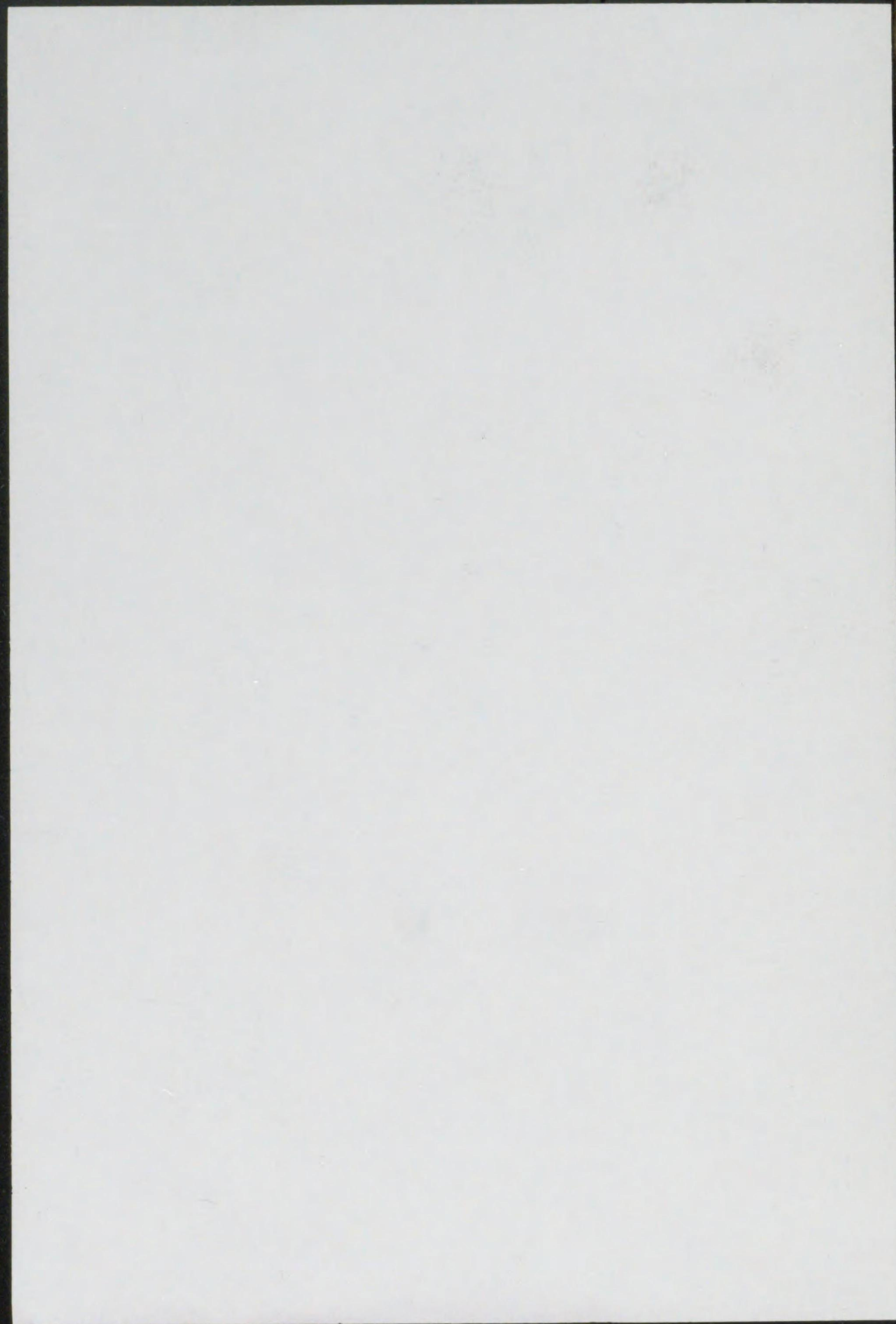
小林秀雄著	Xへの手紙	三百六十部限定版	二圓
井伏鱒二著	肩車	四百部限定版	二圓
成瀬正勝著	明治文學管見	日本圖書館 協會推薦	一圓七十錢
日高基裕著	釣する心	釣魚隨筆集	一圓五十錢
ポオル・ヴァレリイ 小林秀雄譯	テスト氏	全譯	二圓五十錢
ポオル・ヴァレリイ 佐藤正彰譯	ゲエテ頌	増補普及版	一圓
アポリネール 辰野隆 鈴木信太郎・堀辰雄 共譯	贖救世主 アンフィオン	二百六十部限定版	BA 三五圓
フランシス・ジヤム 三好達治譯	夜の歌	譯詩集	一圓五十錢
三枝博音著	小説と論理		一圓二十錢
小松攝郎著	精神科學の諸問題		二圓
吉岡修一郎著	ベルグソンと科學精神		二圓三十錢



724
11

2年 3月 3日

關山亮濟

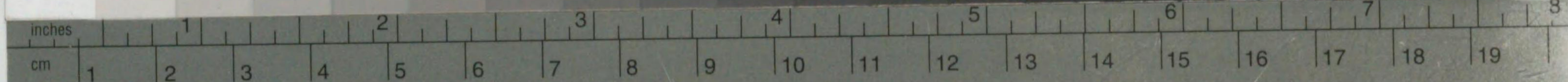


Kodak Gray Scale



© Kodak, 2007 TM: Kodak

A 1 2 3 4 5 6 **M** 8 9 10 11 12 13 14 15 **B** 17 18 19



Kodak Color Control Patches

© Kodak, 2007 TM: Kodak

Blue Cyan Green Yellow Red Magenta White 3/Color Black

